

編集後記

社会史研究において、人びとの健康や病そして医にも研究の対象を広げていくことの重要性が提唱されるようになってからずいぶん経ちました。たとえば、日本でフランス歴史学のアナール学派の成果が『アナール論文選・3 医と病い』（新評論、1984年）として紹介されてから、今年で30年です。この間、いわゆる人文・社会科学系の歴史学においても、医に関連するテーマに取り組む研究者は、以前に比べて増えました。歴史学一般を見渡すと、日本史・東洋史・西洋史、あるいは古代史・中世史・近代史といった、扱う地域や時代による古典的な垣根は依然として存在していますが、そうした垣根を越えて、医に注目する歴史家が学問的に交流する機会も、少しずつ増えてきました。しかしまだ、研究者間の分断（compartmentalization）が解消しているとは、かならずしも言えないようにも思います。人文・社会系の歴史家のなかには、『中外医事新報』を史料として使用したことがあっても、その後継たる本誌を含む日本医史学会において現在まで連続と続いている研究蓄積・研究交流については十分に知らぬままだというような、かく言うかつての私自身のような迂闊なケースもあります。そのような私が、昨年度より編集委員会に加わっていただきました。本誌に寄せさせる論考には、扱う地域や時代について上述のような古今東西の垣根はありません。さまざまな立場・関心から医史にアプローチする研究者のフォーラムとしての本誌の発展に資することができるよう、浅学の身ながら努めさせていただきたいと考えています。

今年は、新規投稿数が近年とくらべて少ない状況です。本誌をつうじての研究成果の発信をぜひご検討くださるよう、みなさまにもお願いする次第です。

(永島 剛)

あじあ
ブックス

Kosoto Hiroshi

小曾戸 洋<著>

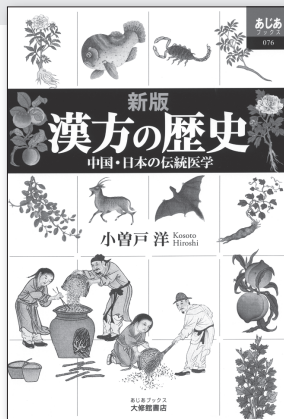
●四六判・264頁 定価=本体1,700円+税

新版 漢方の歴史

中国・日本の
伝統医学

新知見を大幅に 増補した待望の改訂版!

中国で生まれ、日本に入って独自の発展をとげた漢方の通史。好評のロングセラーが初版刊行から15年の時を経て、待望のリニューアル。新知見を大幅に盛り込み、図版を増やし、また、新たに漢方関連年表と、主な生薬の来歴を事典形式にまとめた「和漢薬の来歴」を付し、さらに充実した内容となっている。



【主要目次】

- 第一章 中国医学の形成
- 第二章 よみがえる古代医学の遺物
- 第三章 神農伝説と「神農本草経」
- 第四章 「黄帝内经」と陰陽五行説
- 第五章 張仲景の医学
- 第六章 六朝隋唐医学と日本
- 第七章 宋の医学と日本
- 第八章 金元明清の医学と日本
- 第九章 江戸時代の医学
- 第十章 日本から中国へ
- 付録 漢方関連年表、和漢薬の来歴 他

大修館書店

ご注文は… ☎03-3868-2651 (販売部)

<http://www.taishukan.co.jp>